

當座探題：文苑

著者	稼堂，桃江，錦山，眞榮，孝，蘆月，破村，基紀， 鉄州，芝峯
雑誌名	龍南會雜誌
巻	6 9
ページ	4 7 - 4 9
発行年	1898-12-24
その他の言語のタイトル	当座探題：文苑
URL	http://hdl.handle.net/2298/5192

かきしめては家つとせんに賤か屋の垣根にさける菊の一本
 賤かやのまかきの菊の花もたゞ今日の盛をそへんどや咲く
 法のかなる浮世の外の賤家をひどりしめたる菊の花かな
 まつかやの垣根の菊もかをるなり君か惠の露のあまねく
 すがたにて誰にか見よまつか家の垣根に向ふ白菊の花
 人遠き庭に向へる白菊やこの世の外の色は見えたる
 賤男かすつるかきぬのちりひちを色にかくせり白菊の花

郭外冬眺(全)

託麻野の一面あすきさちかかれて日影さひしき冬はきにけり
 飛鳥のねくらにかえる音もたむて眺さひまき冬の夕くれ
 たゞに守るかき法の外に人もなま山家も今や冬は知るらむ
 霜かれし杜の梢水日は落て鳥の音さひま託麻野の原
 吹さすはふ風に散行く木々の葉の軒端にふかき冬の夕くれ
 木枯の風に草木もかれはてゝ人めまれなる冬の夕くれ
 木枯の吹さゆゝのらを來て見ればなへてふするの床どこ見れ

當座探題

想の漣のさか憂喜俄人々さかすまふさかすまふ風のまじり

文苑

椽堂先生

四十七

眞榮 孝 鉄 基 寄 蘆 奇 鉄 蘆 基 破 孝 桃 眞 榮
 州 州 熊 熊 紀 紀 月 月 州 熊 月 州 月 村 紀 月 州 熊 月 州 熊 月 州 熊

秋の野のをみぞへしにならひそよふすもなひくも風のまに

松間紅葉

木枯のふくをまつまの夕紅葉散るぬ先よりをまされにけり

本館の相あひし

本館の風草山居述懐

ぬらちには訪ふ人かな落葉ふくぬるまはしき山下の庵

在ひとさけ柴の庵の青のふらくる人かなし片山の里

かたききと夢も結はぬ深山路の袖にもすむか有明の月

筋根路やさゆる霜夜に夢さめて有明かたの月を見る哉

世路如夢

夢ぬれやさのふの備も今日の瀬どかはりにかはるけふの世の中

人面も鏡も紅葉如錦

袖木なる賤靴もかみな秋のみは紅葉の錦きぬ時そなき

夕のかけぬれも出て歸る蛋の舟はやくもさすや夕月の影

氷の面氷大和のさき花映水

孝

桃江

桃江

錦山

真榮

孝

蘆明

破村

孝

蘆明

孝

蘆明

破村

孝

蘆明

孝

辞家見月幾回圓

故郷を立いてしより幾度か月の姿のまどかなる見る
望月の影見る毎に思ふかな故郷出て幾日經にけむ
月影も共に流れて秋の夜のなかつきせぬ水の面かな
不知秋思在誰家

基 紀
鉄 州
芝 峯

夜もすがら誰れ秋風を身にまめて衣打つらむ玉川の里
誰家に砧うつらむさらてたにかなしきものを秋の夜なく
さなきたに淋えきものを雁の聲さくにえたへぬ獨寐の床
山松の音にかよひて聞ゆなり月にすみゆく笛の二聲
秋の夜の光くまなき月の夜は笛の聲さへすみて聞ゆる

鉄 州

桃 江
鉄 州

雜 立 歌

月 下 逍 遙
いたつらにふけぬ身をは秋の夜の月にうつしてかこちぬる哉
紅葉

江 陽